

公表: 令和3年2月2日

事業所名 コラボいなぎ いなぎこども発達支援センター

チェック項目		はい	わからない 無回答	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	7 (100%)			・遊びの種類をエリアごとに分け、歩行に不自由のないようスペースを取っている。 ・活動と食事などの生活場面を分けるなどの工夫をしている。	・コロナの状況下でのスペース確保は検討が必要である。
	② 職員の配置数は適切であるか	4 (57%)		3 (43%)	・職員同士で声を掛け合って対応している。	・より丁寧に関わりたいときに人手が足りないと感じることがある。 ・規定としては適切だが、職員数がぎりぎりの状態で休みにくい状況にある。 ⇒設定活動では、児童発達支援管理責任者が入って配置基準以上のスタッフ数で実施している。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6 (86%)		1 (14%)		・建物横を通して個別指導室に向かう道は草や砂利で歩きづらく、バリアフリーとは程遠い。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	5 (71%)		2 (29%)	・建物自体の古さはあるので、日々の清掃に努めている。	・案内板などなく、分かり辛い。駐車場の明記がない。プールの環境整備が出来ていない。 ・施設の老朽化と環境要因によって掃除を行っているが、清潔心地よく過ごせる環境を確保しているとは言い難い。 ・虫が多い。 ⇒毎日の清掃(シルバー人材センターより派遣)に加えて、年2回程度大掃除を実施する。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	6 (86%)		1 (14%)		
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7 (100%)				
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	7 (100%)				
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	5 (71%)	1 (14%)	1 (14%)	・オンブズマンによる評価を年2回受けている。	⇒来年度も継続してオンブズマンによる評価、助言をいただいく。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	7 (100%)			・支援会議や事例検討を定期的に行っている。 ・事例検討などを定期的に行っている。 ・行きたい研修に関しては参加することができる。	・コロナもあり、減っています。業務が多く、時間の確保が難しい。 ⇒スタッフ間で共通理解を持ち支援に当たれるよう、来年度移行も支援会議や事例検討を定期的の実施していく。
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	6 (86%)	1 (14%)			
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	6 (86%)		1 (14%)		
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	6 (86%)	1 (14%)			

公表:令和3年2月2日

事業所名 コラボいなぎ いなぎこども発達支援センター

	チェック項目	はい	わからない 無回答	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	7 (100%)				
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	7 (100%)			・全員で考えていないが、今年度から3名のスタッフで分担して考えるようになった。	・活動立案はグループリーダーの負担が大きいに感じる。 ⇒業務負担にならないよう、スタッフ間で役割分担していく。
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	6 (86%)	1 (14%)		・「定着を図る」「自立して行う」といった視点で積み重ねが必要なのもあると考えている。	
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成しているか	7 (100%)				
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	7 (100%)			・支援内容、役割分担、前回の振り返りを紙に印刷しているので、確認しやすい ・今年度は特に朝の打ち合わせは時間をかけて出来るようになった。	
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	7 (100%)			・十分な時間をかけて振り返り、次回への教訓にしている。	
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	5 (71%)		2 (29%)	・どうしても時間が足りず記録できない時があり、その際には口頭や紙に残して申し送りしている。	・記録の時間を設けているが、他の業務で忙しい日は記録できないこともある。 ・送迎時間や会議などがあるときには記録時間が業務時間内に取れない時がある。 ⇒記録ができない時は翌朝の朝礼で情報を共有するようにしている。
	⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	6 (86%)		1 (14%)		
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	7 (100%)				・曜日など調整が難しいこともある。
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	6 (86%)		1 (14%)	・保健センターやこども家庭支援センターと情報共有を適宜行っている。	
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか					
	㉔ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか					
	㉕ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	6 (86%)	1 (14%)		・必要な方に対してのみ行っている。	
	㉖ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	6 (86%)		1 (14%)	・必要な方に対して、支援シートを作成したり、小学校と引継ぎ会議を行っている。	
	㉗ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	6 (86%)		1 (14%)	・法人内別事業所と合同研修や、専門職部会を行っている。	
	㉘ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1 (14%)	1 (14%)	5 (71%)	・園庭は借りているが、園児との交流はない。	

公表: 令和3年2月2日

事業所名 コラボいなぎ いなぎこども発達支援センター

	チェック項目	はい	わからない 無回答	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	②⑨ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	2 (29%)	1 (14%)	4 (57%)		
	③⑩ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	7 (100%)				
	③⑪ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	4 (57%)	1 (14%)	2 (29%)	・ベアトレとしては行っていないが、適宜相談の機会を設けている。 ・ベアトレではないが、保護者勉強会を年数回行っている。	⇒来年度もペアレントトレーニングとしては実施しないが、保護者の対応力向上やお子さんの理解を深めることを目的に保護者勉強会を実施する。
保護者への説明責任等	③⑫ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	7 (100%)				
	③⑬ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	6 (86%)	1 (14%)			
	③⑭ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	7 (100%)				
	③⑮ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	7 (100%)			・オリエンテーション時に保護者交流の時間を設けている。	
	③⑯ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7 (100%)				
	③⑰ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	7 (100%)			・グループ療育は月案を作成している。	
	③⑱ 個人情報の取扱いに十分注意しているか	7 (100%)				
	③⑲ 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7 (100%)				
	④① 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	3 (43%)	1 (14%)	3 (43%)		
非常時等の対応	④① 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	5 (71%)		2 (29%)		・緊急時のマニュアルは実際の災害を想定して具体性を持たせて再検討する必要がある。 ⇒災害マニュアルを再検討し、保護者の方に周知する。
	④② 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	7 (100%)				
	④③ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	7 (100%)				
	④④ 食物アレルギーのある子どもについて、示書に基づく対応がされているか 医師の指示に基づく対応がされているか	6 (86%)		1 (14%)	・保護者経由で必要があれば、情報をいただいている。	

公表: 令和3年2月2日

事業所名 コラボいなぎ いなぎこども発達支援センター

	チェック項目	はい	わからない 無回答	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	6 (86%)		1 (14%)		・ヒヤリハットは毎日報告し、共有しているが事例集はできていない。
④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7 (100%)			・虐待防止というよりは、子供の権利擁護という視点を持ちながら話し合いをしている。	
④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	6 (86%)	1 (14%)			

◎ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。